

## 日本 NI、LabVIEW 最新版「NI LabVIEW 2009」の販売を開始 — 新技術を搭載し、これまで以上に幅広いアプリケーションに対応 並列プログラミングの簡素化、ワイヤレスセンサネットワークの導入、 アルゴリズム記述方法の拡張により技術革新を推進

### News Release

日本ナショナルインスツルメンツ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役:池田亮太、以下 日本 NI)は本日、設計/テストオートメーション/組込システム開発に役立つ弊社のグラフィカルシステム設計ソフトウェアプラットフォーム「NI LabVIEW」の最新版、「LabVIEW 2009」の販売を開始いたします。LabVIEW 2009 では、コンパイラの改良や、新しい IP の実装により、マルチコア CPU や FPGA を利用したソフトウェア開発が、これまで以上に柔軟に行えるようになっていきます。また、仮想化技術を採用することで、並列分散システムにおけるコストと容積の課題が解決されています。さらに、ワイヤレスセンサネットワークに接続できるようになり、広域計測/監視システムの構築が容易になりました。LabVIEW 2009 ではこの他に、数値演算アルゴリズムの記述方法の選択肢を強化し、リアルタイム制御やシミュレーションの開発工数を削減します。

National Instruments の社長兼 CEO であり創設者の一人でもある James Truchard は今回のリリースに際し次のように語っています。「今日の厳しい経済状況下において、エンジニアや研究者には、従来よりも少ないリソース、短い期間で、プロジェクトを完結させることが求められています。NI では、これまで行ってきた様々な分野への投資(インフラや環境モニタリング、医療系の研究、医療デバイスの設計・テストなど)から、新たなチャンスを見出すことに成功しました。今回の LabVIEW 2009 の開発にあたっては、マルチコアや FPGA 設計、ワイヤレスプラットフォーム、リアルタイム数値演算などの主要技術を役立てることで、これらの分野で技術革新(イノベーション)が促進できるよう注力してきました。」

#### 並列システム設計の改善

LabVIEW 2009 ではマルチコアプログラミングの改善を行いました。LabVIEW 2009 には新たに、並列ループ構造が搭載されています。これは、実行順序に依存しない繰り返し処理を、複数のプロセッサに割り当てる機能で、開発者に負担をかけることなく、マルチコアを活用した実行速度の向上を図るというものです。

マルチコアと仮想化技術を利用することにより、一つのマルチコアプロセッシングハードウェア上で複数の OS を並列動作させることが可能となり、より効率のよいシステムが構築できるようになります。「NI Real-Time Hypervisor」という新しいソフトウェアを使用すると、同じコントローラ上で Windows XP と LabVIEW Real-Time モジュールを並列で動作させることができ、2 つのオペレーティングシステムでプロセッサコアをセグメント化してシステムリソースを効率よく使用することもできるため、システムの開発・維持にかかるトータルコストを低く抑えることができるほか、システムの容積を小さく抑えることができます。Real-Time Hypervisor は、NI の dual-core/quad-core PXI コントローラと、NI の工業用コントローラに対応しています。

#### 高度なワイヤレスセンサネットワークを構築

日本 NI では、LabVIEW 2009 と同時に、ワイヤレスセンサネットワーク(WSN)モジュールもリリースします。WSN を使用すれば、環境計測や建造物の状態など、分散計測システムを短期間で構築できるようになります。WSN システムは、信号入力ノードとゲートウェイで構成されます。信号入力ノードとゲートウェイの間の通信は IEEE 802.15.4 (ZigBee) で行われます。ゲートウェイは信号入力ノードから集めたデータを、イーサネット経由でホスト PC に送信します。LabVIEW 2009 と組み合わせることで、WSN システムの構成がドラッグアンドドロップで行え、計測データの解析・抽出・表示をシームレスに開発できます。



## アルゴリズム記述方法の拡張

LabVIEW のアドオンモジュールとして、今回、LabVIEW MathScript RT モジュール (LabVIEW MathScript RT Module) をリリースします。これは、.m file 形式で記述したアルゴリズムを、リアルタイムオペレーティングシステムで実行させるためのモジュールで、信号入出力と信号処理を伴うプロトタイプやシミュレーションシステムを手早く開発するのに役立ちます。LabVIEW には、1000 種類以上のデータフロー記述の関数 (ローレベルの関数や逐点型の信号処理から、ハイレベルの構成ベースの信号処理など) が用意されていて、いずれも簡単にリアルタイム組込デバイスに実装することができます。MathScript RT モジュールの導入により、エンジニア/研究者が、問題解決に適切な記述方法で確実性に優れた I/O システムを開発できるようになり、医療機器、機械、自律システム設計や試作のリードタイム短縮に貢献できます。

今回のバージョンアップより、LabVIEW のリリースを一年に一度と定め、リリース年にちなんだバージョン名を付けています。一年に一度最新版をリリースすることで、アップグレードのスケジュールが組みやすくなります。

LabVIEW 2009 についてのより詳しい情報を知りたい方、評価版ソフトウェアのダウンロードを希望される方は、[www.ni.com/labview/whatnew](http://www.ni.com/labview/whatnew) をご覧ください。LabVIEW の標準サポート・保守プログラム (SSP) にご契約いただいているお客様には、近日中に郵送にてお知らせが届くほか、NI のサービスリソースセンター ([www.ni.com/src](http://www.ni.com/src)) から最新版をダウンロードしていただけます。会社単位で VLA (Volume License Agreement) でソフトウェアを購入している場合は、社内の VLA 担当者に連絡を取り、インストールに関する指示に従ってください。

## 【価格 (税別)】

### NI LabVIEW 2009

ベースパッケージ: 18 万 4,000 円

開発システム: 38 万 3,000 円

プロフェッショナル開発システム: 63 万 2,000 円

\*価格は事前の通知なく変更される場合があります。ご了承ください。

以上

## 【日本ナショナルインスツルメンツ株式会社について】

日本ナショナルインスツルメンツ株式会社 ([www.ni.com/jp](http://www.ni.com/jp)) は、1976年の創業以来、LabVIEWなどの迅速なテスト開発ソフトウェア、モジュール式計測・制御ハードウェア、またこれらを支える同期プラットフォームを提供しているナショナルインスツルメンツ ([www.ni.com](http://www.ni.com)) の日本法人です。ナショナルインスツルメンツの提供する「ソフトウェア」、「ハードウェア」、「プラットフォーム」の3つの要素は、柔軟性・拡張性に富んだテストソリューションの構築を可能とするもので、技術革新によるテストニーズの変化にエンジニアや科学者がすばやく対応する上で欠かせない「あらゆるテストに必須の計測・制御テクノロジー」です。ナショナルインスツルメンツは米国テキサス州オースティンに本社を持ち、従業員は4,600名以上、セールスオフィスは40ヶ国以上にあります。米国においては、Fortune誌に掲載されるThe 100 Best Companies to Work For (アメリカで最も働きがいのある会社) に過去10年間連続して選ばれています。

## 【本リリースに関するお問い合わせ先】

報道関係者向け

日本ナショナルインスツルメンツ株式会社  
福田

TEL: 0120-108492 / FAX: 03-5472-2994

E-Mail: [prjapan@ni.com](mailto:prjapan@ni.com)

一般読者向け

日本ナショナルインスツルメンツ株式会社  
プロダクト事業部 営業部

TEL: 0120-527196 / FAX: 03-5472-2977

E-Mail: [salesjapan@ni.com](mailto:salesjapan@ni.com)

LabVIEW、National Instruments、NI、ni.com は National Instruments の登録商標です。その他の企業名ならびに製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。